

第6回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
棟居 徳子	人間社会研究域法学系・准教授		400,000円
研究課題名	軍隊における性暴力の防止と被害者支援に関する研究：米国空軍の取組みを題材に		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入〕</p> <p>性暴力は重大な人権侵害にも関わらず、いまだ被害者支援体制が十分に整備されておらず、また性暴力被害への理解が不十分なことから、被害者が被害を訴え出ることが困難であり、訴え出ても二次被害を受けることがある。特に軍隊という特殊な環境においてはその傾向が顕著であり、近年米国では軍隊における性暴力が社会的及び政治的な問題と捉えられ、米軍内の性暴力防止及び被害者支援の強化に向けた取組みが展開されている。そこで、本研究では、米軍の中でも特に性暴力防止及び被害者支援プログラムが発達している空軍の取組みに焦点を当てて、文献研究、インターネットサーベイ、関係者へのヒアリング及び全米性暴力会議への参加を通して、軍隊における性暴力防止及び被害者支援のあり方と課題について検討する。</p>		
研究の成果	<p>本研究では、まず、米軍内の性暴力被害の実態並びに米軍内の性暴力防止対策及び被害者支援プログラムの内容について、文献研究及びインターネットサーベイを通して把握した。また、2014年8月20日～22日にピッツバーグで開催された全米性暴力会議に出席し、主に米軍関係者によるワークショップに参加して最新情報の収集を行った。さらに、米国空軍の組織及び法規に関する基本情報並びに上記対策やプログラムの実施状況及び課題について、空軍関係者から情報提供を受けた。以上の研究成果については、現在情報を整理し、論文発表の準備を進めている。</p> <p>また、米国におけるこうした軍隊における性暴力被害者支援プログラムの発展は、その背景に、地域における性暴力被害者支援体制がすでに確立しているところにある。実際、空軍の支援プログラムも、そうした地域での実践を参考にしている。日本でも、まず地域を基盤とした支援体制の構築が必要であり、この点、2015年3月29日に開催された日本助産学会において、日本の政策動向及び地域の取組みについて報告した。</p> <p>また、日本の自衛隊内の性暴力ないしセクシュアルハラスメントについては、自衛隊員が国家公務員であることから男女雇用機会均等法が適用されず、人事院規則や訓令・通達により対応されている。本研究では自衛隊内の性暴力被害の実態及び被害者支援の実際について十分に把握できなかったことから、今後も引き続き調査を実施し検討していきたい。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>・学会発表：高橋恭子、鴻巣たか子、棟居徳子、新堀由美子、村上明美「性暴力被害者支援と社会の動き」、第29回日本助産学会学術集会、2015年3月29日、於・品川区立総合区民会館きゅりあん。</p>		
経費の執行状況	区 分	執行額 (円)	備 考
	物件費	44,511	国際会議参加費 (2014 National Sexual Assault Conference)
	旅 費	355,489	2014/ 8/19～8/23 米国、 2014/ 8/27～8/28 米国